

新しくなった久居のまち ～祝生誕350年～

津市長 前葉 泰幸



津藩主藤堂高虎公の孫、高通公が雲出の平原を一望に見渡す野辺野の高台で城下町づくりを始め、「この地に永久に鎮居する」ことを願い「久居」と命名して今年で350年になります。高通公の愛した風土の下、久居藩5万3,000石では廃藩置県まで202年間、16代にわたり安定した治世が続きました。

今年はまだ、昭和45(1970)年に久居市が誕生して50年に当たります。古くから栄えた街道筋の商業に加えて、工業団地への企業進出、榊原温泉の観光、久居インターチェンジ周辺の開発、住宅団地の造成等により順調に発展してきた久居は、市制施行35周年を迎えた平成18(2006)年、中勢の中核となる都市圏をつくるべく、津市との合併に踏み切りました。三重県内での平成の大合併において、市と町村、あるいは町村同士の合併はあまたあれど、2つの市が他の町村とともに新しい市をつくったのはここだけです。将来を見据えた先達たちの思い切った決断でした。

久居のまちづくりは新・津市に引き継がれ、合併15年目にして久居駅周辺は副都市核にふさわしい姿に生まれ変わります。

駅東口は自衛隊久居駐屯地との用地交換により実現した幅員17mの道路が南北をまっすぐに貫き、205台収容の駅前駐車場、510台分の駐輪場、広いロータリーと大型のエアテントが3基設置できる防災広場が完成します。駅西口では風雨が吹き込むなどの課題があった待合所を改築。故障しがちだった噴水は障がい者用駐車スペースに作り替えました。来月には、成美地区の老朽化した幹線水路1.1kmを改修、暗渠化して避難路として利用可能にする事業が完了します。

久居体育館のユニバーサルデザイン化事業では正面入り口の自動ドア化、トイレ、シャワー室の改修を実施し、久居市民会館跡地には久居交流広場を整備しました。そしていよいよ6月、旧久居市役所跡地で建築を進めてきた久居アルスプラザがオープンします。久居駅からのアクセスロードとなる商店街にはカラー舗装が施され、歩いて楽しめるまちになります。

5年間で総額約86億円を投じた都市再生事業は久居命名350年、久居市制50年の年に完了し、お披露目の日を迎えることとなりました。伊勢湾を望む恵まれた大地に築かれてきた繁栄の歴史を胸に、久居400年に向けて新たな都市づくりに歩みを進めてまいりましょう。

テレビ版市長コラムでは、前葉市長がこのテーマについて語ります



津市長コラム

検索

市長の活動日記から

✓津市・鎮江市友好都市提携35周年記念津市代表団訪中…11月22日～24日



1984年に津市と中国江蘇省鎮江市が友好都市提携を結んで今年で35周年。5年ぶりとなる鎮江市訪問で恵建林鎮江市委員会書記長、張葉飛市長と会談。覚書に署名し、青少年交流の一層の促進と、両市の地域産業の基盤と競争力強化に向けて相互協力を発展させることを確認し合いました。

✓第71回全国人権・同和教育研究大会(サオリーナほか)…11月30日・31日

人権・同和教育の研究大会がサオリーナをはじめ市内17会場で開催されました。三重県では10年ぶりの大会に全国から教職員や行政関係者など約1万1,000人が参加。学校現場での人権教育や活動を発表し交流を深めました。人権を守る都市としての取り組みをさらに進めてまいります。



✓第123回社会保障審議会医療保険部会(全国都市会館)…12月25日



人口問題や年金・介護・健康保険などの社会保障に関する重要事項を調査審議し、厚生労働大臣や関係省庁等に意見を述べるのが社会保障審議会の責務です。国が全世代型社会保障の検討を進める中、医療保険部会の委員として地域医療・福祉のさらなる充実に向け地方から声を届けます。